

宮崎県郷土 先覚者

日本の歴史の中に大きな功績を残した
偉人達の人生を知り、

その足跡を辿ることで、現代を生きるみなさんの一つの
道標として頂きたいと思えます。

先覚者たちが生きた時代や背景を知ること、
また、先覚者としての功績と、エピソードを知ること、
新たな魅力を感じられるのでは
ないでしょうか。

安井 息軒

1799-1876

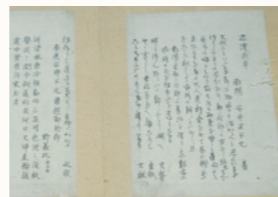


学問に生涯を捧げた
儒学者。国と故郷のため、
信念を持って学び続け、
多くの優秀な人材を
育てた先覚者。

江戸時代後期の儒学者。清武郷中野(宮崎市清武町)
に生まれる。昌平坂学問所などで学び、1831(天保
2)年に藩校振徳堂の設立に伴い助教に任命され、父
滄洲とともに飢肥(日南市)へ移った。その後、江戸
に出て幕府から学問所の儒者を命じられる。また、三
計塾を開き、谷千城・陸奥宗光をはじめ幾多の人材を
育てた。



■安井息軒旧宅



■紀行文「志濃武草」

三好 退蔵

1845-1908



儒学的教養をもとに
近代司法制度を
取り入れ、その適切な
運用につとめた
先覚者。

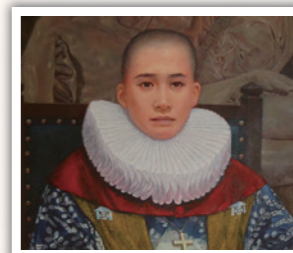
明治時代の司法官、弁護士、高鍋(高鍋町)に生ま
れる。明倫堂や安井息軒に学び、1873(明治6)年
に司法省に入り判事となった。伊藤博文の憲法調査に
随員として、ヨーロッパの司法制度を調査した。1891(同
24)年に起こった大津事件当時は検事総長を務めて
いた。のちに大審院長(現在の最高裁判所長官)に就
任した。



■三好退蔵が院長となった当時の大審院

伊東 マンショ

1570-1612



天正の少年使節として
ヨーロッパに行き
ローマ教皇に拝謁した
国際交流の先覚者。

天正遣欧使節の正使。都於郡(西都市)に生まれる。
マンショは洗礼名。キリシタン大名大友義鎮(宗麟)
の縁戚にあたり、伊東氏の没落とともに豊後国(大分
県)に移る。1582(天正10)年にローマへ向け出発。
1585(同13)年にローマ教皇に公式謁見をした。
1590(同18)年に帰国し、イエズス会に入った。



■マンショが生まれ育った都於郡城跡

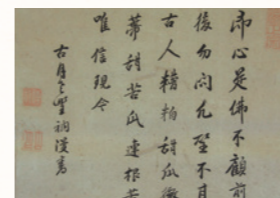
古月 禅師

1667-1751



大光寺中興の住職と
して、進んで寺院の
刷新に努力し、
民衆の教化につとめた
先覚者。

江戸時代の僧侶。広瀬村(宮崎市佐土原町)に生ま
れる。臨済宗古月派の祖。大光寺(同市同町)や京都
で仏典を修める。1702(元禄15)年豊後国(大分県)
に古月庵を営み、1704(宝永元)年に大光寺に請わ
れて戻り住持となる。民間布教も積極的に行い、佐土
原地方には自身が作った一般民衆にわかりやすく人の
道を説く「いろは口説き」などが今なお伝わる。



■僧古月書

川越 進

1848-1915

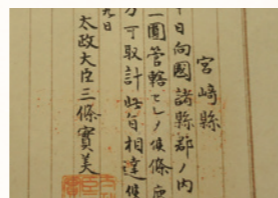


宮崎県再置運動の
主導者として活躍し、
後世でも「宮崎の父」
として愛される
先覚者。

明治時代の政治家。加納村(宮崎市清武町)に生ま
れる。鹿児島県議員、同議長として、鹿児島県に編
入されていた旧宮崎県の分県運動に奔走し、1883(明
治16)年5月9日、宮崎県の再置に成功した。その後、
宮崎郡長を経て、第1回総選挙に当選し衆議院議員
として国政に尽力した。



■宮崎県再置当時の県庁舎



■宮崎県再置の太政官達

高木 兼寛

1849-1920



医学、軍人、経済人、
経営者、教育者、政治家、
開拓者、芸術家、宗教家、
多彩な才能を
持つ先覚者。

明治・大正時代の医者。穆佐(宮崎市高岡町)に生
まれる。成医会講習所(のちの東京慈恵会医科大学)
や看護婦教育所(日本初の看護学校)の設立者。東京
海軍病院長や海軍軍医総監などを歴任。脚気予防に成
功した。わが国最初の医学博士の一人で、「ビタミン
の父」とも呼ばれる。

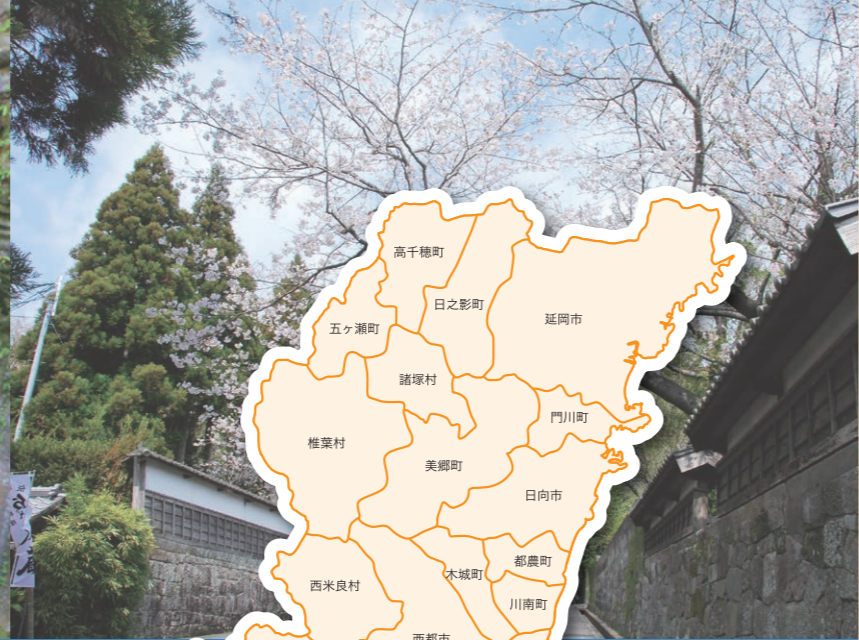


■フェロシップ・ディプロマ受賞
留学時代、当時イギリス医師として最高の栄誉賞
を受賞した。



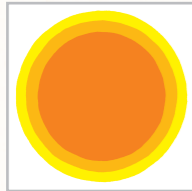
■成医会講習所第一期生
帰国後、1881年「成医会」結成。患者の立
場立った医師を養成した。





宮崎県市町村地図

宮崎県のキャッチフレーズ
「日本のひなた宮崎県」



日本のひなた宮崎県

「日本のひなた宮崎県」は、温暖な気候やおいしい食べ物、温かい県民性など、宮崎の特徴を分かりやすく伝えるキャッチフレーズです。ロゴマークは、そのような「ひなた」のチカラを表現しているデザインになります。



宮崎県民歌

1. 青い空光ゆたかに
陽に映えてお山脈
黒潮岸にあたかく
南の風のさわやかに
夢をよぶ 幸をよぶ
あ、わが郷土宮崎県
2. 新しい息吹にもえて
産業の伸びゆくところ
われら共に手をとって
いま躍進のこの力
夢をよぶ 幸をよぶ
あ、わが郷土宮崎県
3. はまゆうの香りもたかく
花ひらく明日への文化
とおい歴史をしのびつつ
ともに築こう理想郷
夢をよぶ 幸をよぶ
あ、わが郷土宮崎県

明るく堂々と ♩ = 104 作詞 酒井 祐春 | 作曲 飯田 信夫

置県 140 年記念 「宮崎県 140 年のあゆみ」

発行日 令和 5 年 3 月
発行 宮崎県総合政策課
制作 明巧堂印刷(株)

小村 寿太郎



母国の国際的地位を高めるため列強諸国を相手に精力的な外交交渉を展開、国の発展のために尽くした。先見の目と揺るぎない信念を持ち合わせた先覚者。

明治時代の外交官。飢肥(日南市)に生まれる。藩校振徳堂で学び、文部省第1回留学生となって渡米。帰国後は官僚となり、司法省から外務省に転じ第1次・2次桂太郎内閣の外相となる。1902(明治35)年の日英同盟や1905(同38)年のポーツマス条約の締結、1911(同44)年の関税自主権回復などに尽力した。



ポーツマス講和会議場

若山 牧水



酒を愛し、旅を愛し、自然を愛した歌人。日本各地を巡り、歌のこしながらも、常に故郷を思い続けた先覚者。

明治・大正時代の歌人。坪谷村(日向市東郷町)に生まれる。本名は繁。早稲田大学在学中に、北原白秋らと交友。尾上柴舟に師事。1909(明治42)年に刊行された歌集『別離』によって名声を高めた。『海の声』『みなかみ』『山桜の歌』など計15冊の歌集を発表し、旅と自然とふるさとを愛した国民的歌手として広く親しまれている。

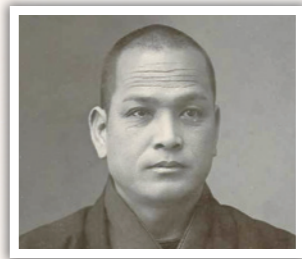


昭和3年最後の旅姿



書齋にて

石井 十次



児童福祉制度が無かった時代において、生涯児童救済に尽力した「児童福祉の父」。

明治時代の社会事業家。上江村(高鍋町)に生まれる。岡山県甲種医学校に学ぶも、1887(明治20)年に孤児教育会を設立し、医書を焼いて孤児救済に専念。1906(同39)年には東北凶作地の孤児貧児救済に着手し、1200人を岡山孤児院に收容。1909(同42)年には移転に着手し、茶臼原(西都市・木城町)に分院を開設した。わが国における「児童福祉の先駆者」と言われる。



密室教育 対座する石井と少年。1対1で行う、今で言うカウンセリング。



岡山孤児院児童





宮崎県人会世界大会
Miyazaki Kenjinkai World Conference



宮崎県